

様式 1

令和 6 年度学校評価報告書  
渋谷区立上原中学校

## 令和 6 年度 学校評価報告書

令和 7 年 3 月 5 日  
渋谷区立上原中学校

(1) 新たな学びの実現 (授業 DX)

## 【ア】 自己評価

重点目標		① 日々の授業改善 ② ICT の日常化 ③ シブヤ未来科の推進		
評価指標		取組内容	評価	今後の課題と方針
①	全国学力・学習状況調査の「授業の内容はよくわかりますか」という回答が全国平均を上回る。	個に応じた指導を充実し、基礎基本の徹底を図る。友達との協働学習を取り入れた授業の工夫を行う。	B	「授業がよくわかる」と肯定的な回答は、国・数平均で 78.7% (全国平均 79.2%) であった。今後もすべての教科で意欲関心の高まる授業の工夫を行う。
②	全国学力・学習状況調査の「授業でコンピュータを使用しましたか」という回答が 8 割を上回る。	デジタル教科書、A I ドリル等の活用を推進するとともに教員同士で教え合う環境をつくる。	A	ICT 機器を「週 3 日以上使用」 87.3% (全国平均 64.4%) であった。その内「ほぼ毎日」が 62.8% であり、今後も ICT 使用を日常化するように推進を図る。
③	保護者・地域アンケートで「シブヤ未来科」を推進しているとの回答が 8 割を上回る。	各学年でシブヤ未来科について学習活動の充実を図る。他校の実践を研究する。	C	「推進している」と肯定的な回答は 58.0% であった。一方「分からない」という回答が 35.0% (昨年度 42.2%) であり、今後シブヤ未来科の発表会などを企画する。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

## 【イ】 学校関係者評価

評価	学校関係者委員会の見解について
B	シブヤ未来科の授業を見る機会を設けたり、ホームページ等で授業の様子などを伝えたりすることで、学校がシブヤ未来科を推進していることをさらに広く伝えることが必要である。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

(2) 安心・安全に挑戦できる環境について

## 【ア】 自己評価

重点目標		① 人権教育の充実 ② いじめ防止の徹底 ③ 特別支援教育の推進		
評価指標		取組内容	評価	今後の課題と方針
①	全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがある」という回答が全国平均を上回る。	あらゆる教育活動で偏見や差別を許さない人権教育を推進する。校内研修で教員の人権感覚を磨く。	B	「自分にはよいところがある」と肯定的な回答は 84.1%(全国平均 83.3%)であった。今後も一人一人の生徒を大切にした教育の充実を図る。
②	いじめ調査を年 5 回以上実施し、早期発見・早期対応に努める。	いじめ防止学校基本方針を教員・保護者・生徒に周知し、取組の徹底を図る。	A	いじめ調査を年 4 回、いじめを含む学校生活アンケートを年 6 回実施した。いくつかの事案に組織的に早期対応ができた。
③	特別支援校内委員会を月 1 回開催し、個別の支援方法について協議する。	特別支援教育を推進するために巡回相談の情報を共有し、専門家とともに支援方法を策定・実施する。	A	校内委員会を月 1 回以上実施した。今後も個別指導計画を全教員で共有し、支援の方法を工夫していく。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

## 【イ】 学校関係者評価

評価	学校関係者委員会の見解について
B	全国学力・学習状況調査等に現れてこなかったり、サインに気づかず支援の対象から外されていたりする生徒がいないか、常に気を付けなければならない。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

(3) 校務 DX への取組

## 【ア】 自己評価

重点目標		① デジタルコンテンツの活用 ② ペーパーレス化の推進		
評価指標		取組内容	評価	今後の課題と方針
①	教員が毎日、出退勤システムを活用する。	出退勤システムを活用し、時間外勤務等を把握させ、健康管理を徹底させる。	B	毎日出退勤システムを活用することができた。時間外勤務の抑制に少しはつながっている。
②	職員会資料等は PC に添付し、ペーパーの資料をなくす。	ペーパーレス化を進めるために会議資料は PC に添付することの徹底を図る。	A	ほとんどの会議の資料は PC でペーパーレスになった。更なるペーパーレス化を推進する。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

## 【イ】 学校関係者評価

評価	学校関係者委員会の見解について
B	教員がタブレットを持ち帰ることができるため、自宅で仕事の続きをしている時間がどのくらいあるのかが気になる。 校務 DX により教師が生徒と関わる機会を増やすためにも、校務 DX はさらに推進すべきである。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

**（４）家庭・地域との連携について【ア】 自己評価**

重点目標		① コミュニティ・スクールの活性化 ② 地域学校協働本部の活動 ③ ホームページの充実		
評価指標		取組内容	評価	今後の課題と方針
①	学校運営協議会を年 5 回実施し、学校情報の提供と意見聴取を行う。	コミュニティ・スクールの活性化のために、学校運営協議会での意見を積極的に聞き取る。	A	学校運営協議会を年 5 回実施することができた。また体育祭、学習発表会等の行事でも協議会委員の方に参観してもらい、直接ご意見をいただくことができた。
②	地域学校協働本部を活用して地域と学校で連携した活動を行う。	地域学校協働本部を活用し、保護者・地域と連携した取組を企画し、生徒も共に活動する。	A	校門付近の草むしりや花壇整備を保護者・地域・生徒と一緒に活動した。今後も地域行事等の運営の手伝いに関わるなど生徒のさらなる活躍の場を広げたい。
③	保護者・地域アンケートで学校はホームページを活用していると回答が 8 割を上回る。	学校情報を家庭・地域にホームページを通じ、積極的に発信する。	A	「活用している」と肯定的な回答は、91.8%であった。今後もホームページを活用した広報活動を積極的に行う。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

**【イ】 学校関係者評価**

評価	学校関係者委員会の見解について
A	紙媒体での学校だより、学年だよりの他、ホームページにも保護者や地域の活動の様子を掲載することで、連携の活性化を図ることができる。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

(5) 特色ある教育活動について

## 【ア】 自己評価

重点目標		① 教科教室型システムの活用 ② 生徒主体の学校づくりの推進		
評価指標		取組内容		今後の課題と方針
①	全国学力・学習状況調査の「学校に行くのが楽しい」という回答が全国平均を上回る。	教科教室型システムを生かして教員の教科部会の充実を図る。教科ごとの掲示物を工夫する。	A	「学校に行くのが楽しい」と肯定的な回答は、88.3%（全国平均 83.8%）であった。今後も施設の特色を生かした学校生活の充実を図る。
②	生徒が主体となった学校行事の充実を図る。	学校行事で実行委員会を作り、生徒の主体性を生じた企画・運営を行う。	A	体育祭、学習発表会等で生徒主体の実行委員会をつくり、企画・運営を行った。今後も多くの生徒が主体的に企画・運営する行事にしていく。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

## 【イ】 学校関係者評価

評価	学校関係者委員会の見解について
A	これからも校舎の特徴を生かしながら生徒の主体性を伸ばして行ってほしい。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成